

令和7年度 学校教育自己診断 分析

<教職員回答>

(肯定的回答率が高い項目)

「各教科で生徒の実態をふまえ、常に指導方法・評価方法の工夫・改善」**97.9%**

「生徒の人権を尊重し、日々の教育活動」**93.8%**

「学校行事は生徒主体で工夫・改善に取り組んでいる」**90.0%**

→授業改善や人権を尊重した指導、行事運営に関する項目において、教職員が日々の取組に一定の成果と手応えを感じている様子がうかがえる。

(肯定的回答率が低い項目)

「施設・設備の清掃など環境整備が行き届いている」 34.0%

「新しい教育課程は必要な学力をつけ、時間的にも十分」 52.0%

「生徒の興味・関心・適性に応じたきめ細かい進路指導」 70.2%

→施設の老朽化については、本校の努力のみで解決が困難な側面もあるが、生徒・教職員が主体となった美化活動や環境整備を継続的に行うことで、学習環境の質の向上に努めていく必要がある。併せて、教育課程の在り方や進路指導の方法についても、社会の変化や生徒の実態を踏まえ、内容や体制のさらなる充実に向けて検討を進めていくことが求められる。

<生徒回答>

(肯定的回答率が高い項目)

「1人1台端末(Chromebook)を活用している」 **95.8%**

「ホームルーム・総合的な探究の時間の活動は活発である」 **91.4%**

「文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」 **90.9%**

→この3年 LGH として様々な取り組みを進めてきた成果がうかがわれる。行事運営については生徒も非常に肯定的である。

(肯定的回答率が低い項目)

「国際交流に興味を持っている」 **66.4%**

「学校に気軽に相談できる先生がいる」 **66.9%**

「施設・設備の環境整備で気持ちよく生活できる」**67.1%**

→本校においては、新型コロナウイルス感染症流行以前には、国際交流に関する項目の肯定的回答率が90%を超えていたが、現在は当時の水準まで回復していない状況がある。その背景として、インターネット環境の普及により、日常的に海外と容易につながることが可能となり、海外に関する情報に触れること自体が特別なものではなくなってきていることが考えられる。加えて、生徒の興味・関心が多様化・細分化しており、国際交流という分野が必ずしも一律に高い関心を集めにくくなっていることも要因の一つであると考えられる。

<保護者回答>

(肯定的回答率が高い項目)

「文化祭は楽しく行えるよう工夫されていた」 **91.4%**

「体育祭は楽しく行えるよう工夫されていた」 **89.4%**

「阪南高校に入学させてよかった」 **89.2%**

→学校行事への評価が高く、入学満足度も高い。

(悪化幅が大きい項目)

「学校は家庭への連絡や意思疎通をしっかり行っている」 **64.4%(-10.9pt)**

「HP やメルマガの情報提供」 **73.0%(-7.1pt)**

「学校生活についての先生の指導には納得できる」 **69.8%(-6.5pt)**

→家庭連絡や意思疎通をはじめとする保護者とのコミュニケーションに関する項目において、肯定的回答率が前年度より低下している。このことから、学校の指導や取組について、その趣旨や背景、ねらいをより丁寧に説明し、保護者との対話を重ねていく必要があると考える。また、保護者アンケートの回答数は全体の約 3 分の 1 にとどまっており、学校評価としての信頼性の面で課題がある。アンケート結果を今後の教育活動の改善により効果的に生かすためにも、保護者が回答しやすい環境づくりや周知方法の工夫を通して、回答数の向上を図る必要がある。

以上